

『たまりば研修会』

開催報告



一月十四日（土）、岡山市民会館において「自分らしく働く、働き続けるための研修では、遠くは県外や県北から、百名近くの方々の参加がありました。

講演では、九州産業大学の倉知延章先生より「障害者の就労支援の現状及び職場定着支援の課題と展望について」お話を頂きました。

就労支援の現状について、障害者の雇用状況は右肩上がりで、過去最高を更新。法定雇用率の上昇やハローワークの雇用支援策・就労支援事業所の増加等が要因に挙げられました。また、企業の障害者に対する合理的配慮の義務化及び障害者差別禁止法の制定により、障害についてきちんと伝えて配慮を受けることで働きやすい職場環境が得られ、その提案やご本人の権利擁護活動を行なうのが支援者の大きな役割になるとの

ことです。どうすれば働けるのかを考え、その人が持っている力を精一杯発揮できるような職場環境を作る為に、仕事の仕方を職場に伝えていく。まずは働きがいのある職場を見つけること、ご本人のリカバリーや自信も大事なポイントとなるとの事でした。定着支援の一つとして「たまりば」はとても有効であり、仲間同士で支え合える場に加え、個別の支援につながれば、果たす役割は大きいと話して下さいました。



Sさんは、職場に「障がい」について詳細を伝えず勤務を続けられていて、その中での不安や迷いを「たまりば」で仲間やスタッフに話すことで安心を得られているそうです。

「当事者にとって家だけではなく、色々な場所に自分の存在を認めてもらえる居場所があることはありがたい」との言葉がとても印象的でした。

桐山さんは就労継続支援A型事業所を利用されながら、一般就労の就職活動に取り組む中で「たまりば」

困った時には支援者も一緒に考えてくれる「相談場所」として、今後の「たまりば」の可能性を更に広げて行くためのエッセンスを頂きました。

加藤さんは、「[たまりば]は自分自身も働く一人の人間として、メンバーの皆さんからの様々ななお話を通じて【働く】ということを学んでいる」とお話しされています。

どなたのお話しからも、【働くことや働き続ける】ためには、自分一人で頑張るのではなく、働く喜びや苦しさを分かち合える仲間の存在や、安心して立ち寄ることの出来る居場所の存在の必要性を改めて感じた時間となりました。

「自分らしく働く、働き続けるための私たちにできること」として、思いや希望などを伝えて頂きました。

Sさん、桐山さん共に、「たまりば」の充実、仲間づくりの場の一つとして活用しておられます。

川上さんからは『たまりばに期待すること』として、「いつもいつも支援用されており、利用の目的は様々だという事を改めて感じました。



でも仕事の相談をされていったそうですが、また、苦手だと感じている人とのコミュニケーションの場としても活用されており、利用の目的は様々だという事を改めて感じました。

